

来週の「売り物」、記事はこれ



2015年7月3日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

サッカー女子W杯決勝

日本時間6日(月)午前8時キックオフ



サッカーの女子ワールドカップ(W杯)カナダ大会で、連覇を目指す日本(なでしこジャパン)は日本時間6日午前8時からの決勝で、米国と対戦します。国際サッカー連盟(FIFA)ランキングは、日本が4位、米国は2位。通算対戦成績は日本の1勝6分け23敗(PK戦は引き分け扱い)ですが、前回の2011年W杯ドイツ大会でも決勝で対戦し、日本がPK戦を制して初優勝を果たしました。日本は勝てば、03年、07年大会のドイツに続き、2カ国目のW杯連覇となります。今大会でも1点差のゲームで勝ち進んできた日本。バンクーバーのピッチで躍動するなでしこジャパンの活躍を、6日夕刊と7日朝刊で詳報します。

「Tokiko's Kiss」

おんなのしんぶん

6日(月)

月1回掲載の加藤登紀子さんの対談コーナー。今回のゲストは、作詞家で放送作家の永六輔さん=写真=です。テレビ放送開始時から番組制作を手がけ、数々のヒット曲を生み出すなど、戦後の日本社会に大きな影響を与えた永さん。パーキンソン病と闘いながら、82歳となった今も、ラジオ出演や執筆活動を続けています。

「最近、体調に波がある」という永さん。取材した日は調子も良く、50年以上前の話も楽しそうに話されていました。旧知の仲である加藤さんとのやり取りをお楽しみください。



夏は「揚げずに揚げ物」

くらしナビ面7日(火)



暑くなると、妙に揚げ物が食べたくありませんか? だけど、作る人は熱い火の前で息も絶え絶え……。そこで、グリルで焼く、フライパンで揚げ焼きにすることで、汗をかかずにすみます。夏こそ、「揚げない揚げ物」が力を発揮してくれます。油が少なくカロリー控えめなのに、揚げ物を食べた満足感は得られます。焼き春巻き、ミルフィーユかつ、ノンフライから揚げの3種類の作り方を紹介します。

「母と乳」

くらしナビ面9日(木)から

出産後、思うように授乳ができずに悩むお母さんは多いようです。ネット上には「母乳礼賛」の情報が多く、周囲からも母乳のメリットを唱えられると、母乳の出ないお母さんには大きなプレッシャーとなっています。母乳での育児が望ましいことは共通認識ですが、お母さんたちを追い詰めているものは何なのでしょう。どうやってつらさを克服すればいいのでしょうか。体験者と専門家の話から探りました。



落語で訴える「語り部」

朝刊文化面 11日(土)



太平洋戦争中は学徒動員され軍需工場で働いていた落語家の川柳川柳(かわやなぎ・せんりゅう)さん(84)。軍歌で太平洋戦争史をつづる創作落語「ガーコン」で、40年以上も高座から戦争の現実を訴えています。寄席にも戦争を知る世代がいなくなり、「やりにくくなった」と言いつつも、今また改めて強くする「語り部」としての思い。「創作の原点 戦後70年」は、そんな川柳さんに迫ります。

歴史問題に揺れる「世界遺産」

オピニオン面 [論点] 10日(金)

ユネスコ世界遺産委員会の登録審議がドイツ・ボンで開かれます。注目は、日本政府が強力に働きかけていた九州、山口などの「明治日本の産業革命遺産」が認められるかどうか——。今年5月にユネスコの諮問機関が登録を勧告したところ、韓国側が「強制労働の歴史を隠ぺいしている」と猛反発、世界中でネガティブキャンペーンを繰り広げました。先ごろの日韓外会談で沈静化したと伝わりますが、いまだ両国間の外交問題としてくすぶり続けています。「歴史」という意外な伏兵がひそんでいることが明らかになった世界遺産。「歴史問題」から世界遺産を考えます。



「知りたい」が分かる。

オピニオン面にご注目ください。

なぜ一度立ち止まって考え直さないのか！

2520 億円もつぎ込む新国立競技場建設計画

夕刊2面特集ワイド 6日(月)



2020年東京五輪・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場の建設計画に対し、批判の声が高まっています。建設予算が当初より895億円も多い2520億円に膨らんだうえ、財源確保のめども立たないなど、問題だらけだからです。国の借金が1000兆円を超え、東日本大震災で被災した各地の復興も急がれる中、このまま進めることが本当に正しいのでしょうか。なぜ、立ち止まって考え直すことができないのでしょうか。専門家とともに考えます。

川口自主夜間中学

先生と生徒 学び合う30年

5日(日)



夜間中学の先生たちで作る研究会の推計によると、学齢期に学校へ通えなかった「義務教育未修了者」は、非識字者を含めて全国で百数十万人に上ります。貧困や不登校、外国籍……。さまざまな理由から学校へ行けなかった人たちに学びの場を提供するのが公立夜間中学です。しかし、埼玉県には首都圏の1都3県で唯一、「公立」がありません。そうした中、ボランティアが運営する埼玉県川口市の「自主夜間中学」が今年、設立30年を迎えます。教科書の無償配布など公的支援はなく、公立中学と違って卒業資格も得られませんが、これまでに1000人を超す生徒が学舎を巣立ちました。年齢や国籍は違っても同じように学びを求める生徒と、支えるスタッフの姿を追いました。



日曜朝は『S』で始まる——。

ストーリーにご期待下さい。